

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 30 日

川崎市長 殿

提出者

住 所 川崎市川崎区塩浜3-24-12

氏 名 上下水道局入江崎総合スラッジセンター
 所長 植田 勝利
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
 電話番号 044-287-7204

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	入江崎総合スラッジセンター		自主管理事業登録番号 (3081)
事業場の所在地	川崎市川崎区塩浜3-24-12 TEL(連絡先):		
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	F-電気・ガス・熱供給・水道業 (具体的には) F363 下水道業		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載してください。)		
受入汚泥流量 393万m ³ /年			
③ 従業員数			
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	川崎市では汚泥処理の効率化を図るため、市内4ヶ所の水処理センターで発生する下水汚泥をパイプラインで当スラッジセンターに圧送し、汚泥処理(濃縮・脱水・焼却)を行っている。(別添パンフレット参照)		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
別紙1参照		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】	
	産業廃棄物の種類数	6種類 * 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
	① 排出量	832,741.3 t
	(これまでに実施した取組)	
	人口の増加に伴い、流入下水水量が増加する傾向にあり、発生する下水汚泥量を抑制することは非常に困難ではあるが、濃縮・脱水・焼却等の処理工程の調整により減量化に努めている。	
② 計画	【(令和7年度)目標】	
	産業廃棄物の種類数	6種類 * 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。
	① 排出量	808,228.6 t
	(今後実施する予定の取組)	
	設備機器の万全な運転状況を確保し、汚泥濃縮機の運転条件適正化による高濃度汚泥の製造や凝集剤の選定と添加物の適正管理に努める。処理工程で減量化99%以上を目標とする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	焼却汚泥について、再利用処理としてセメント原料化の委託を行っている。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	焼却汚泥については、再利用処理として今後もセメント原料化するための委託を行う。廃油・廃プラスチック類・金属くず等については、より一層の分別を図るため、定期的に保管場所を巡回し分別状況及び排出量を把握する。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【(令和7年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	26,975.2 t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	828,709.3 t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【(令和7年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	62,169.2 t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	803,799.0 t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	中間処理の新技术に関する情報収集や技術開発担当部署との連携を通じて、地球温暖化対策等に資する施設構造や技術開発に取り組む。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【(令和7年度)目標】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t
	(今後実施する予定の取組)		

* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。

* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	⑩ 全処理委託量	4,032.0	t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0	t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	3,971.3	t
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t
	(これまでに実施した取組)		
	川崎市上下水道局契約規程に基づき委託契約を行っている。 焼却汚泥については、再利用処理としてセメント原料化にするための委託をおこなっており、委託業者との連絡調整を密にして迅速に対応している。		

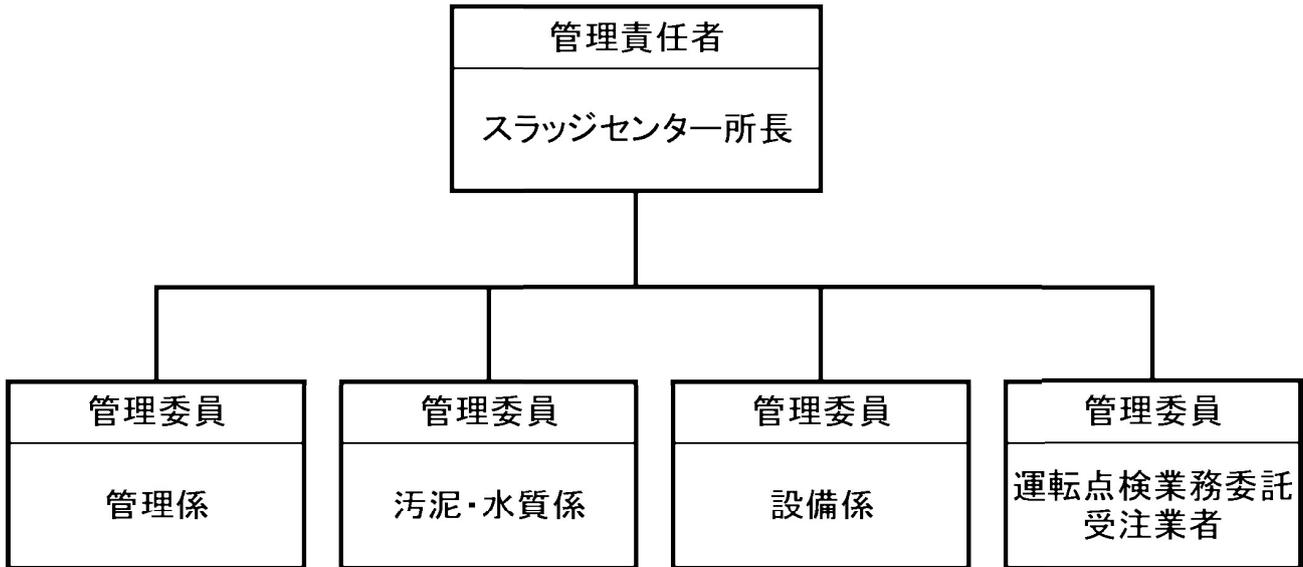
* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。

② 計画	【(令和7年度)目標】	
	⑩ 全処理委託量	4,429.6 t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,369.0 t
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	t
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
	有効利用率90%を目標に、設備機器の万全な運転に努め、委託先でのリサイクル可能な焼却灰の製造を行う。	
※ 事務処理欄		

備考

- 1 この様式は、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

入江崎総合スラッジセンター
産業廃棄物の処理に関する管理組織図



施設概要

敷地面積	34,599.25㎡
処理方式	濃縮、脱水、焼却
処理能力	120tds/日
構造	地下2階 地上4階
余熱利用	温水プール25m×6コース



入江崎余熱利用プール

主要設備

施設名称	主要機器	主仕様	数量	収容施設名
汚泥受入設備	調整槽	700㎡	6	汚泥受入棟
	混合槽	300㎡	3	汚泥濃縮脱水機棟
濃縮設備	遠心濃縮機	100㎡/h	8(2)	汚泥濃縮脱水機棟
脱水設備	高効率型ベルトプレス脱水機	ろ布幅3m	16(4)	汚泥濃縮脱水機棟
焼却設備	流動焼却炉	40tds/日	4(1)	焼却炉囲
返流水設備	沈降槽	水面積負荷30㎡/日	3	用水・返流水設備棟
用水設備	移床式砂ろ過器	ろ床面積15㎡	9	用水・返流水設備棟
脱臭設備	生物脱臭塔+活性炭吸着塔	250㎡/min	3	汚泥濃縮脱水機棟

()は予備

汚泥収集処理

本市では、汚泥処理の効率化を図るため、市内の4つの水処理センター（入江崎、加瀬、等々力、麻生）から発生する汚泥を、当スラッジセンターにパイプラインで圧送し、処理を行います。



案内図

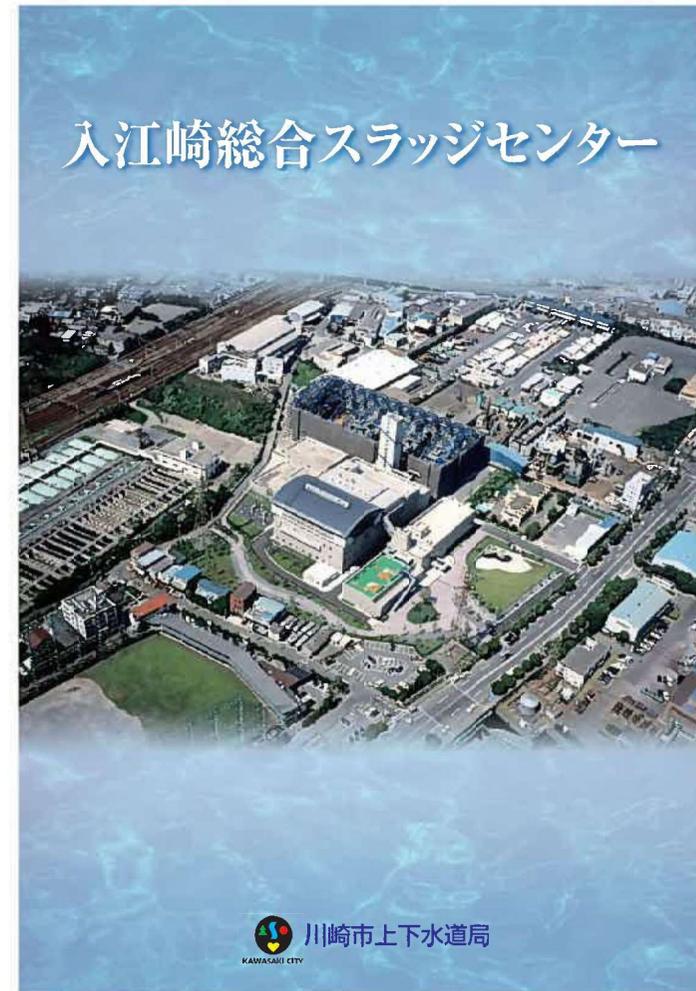


川崎市上下水道局
入江崎総合スラッジセンター

〒210-0826
神奈川県川崎市川崎区塩浜3-24-12
TEL 044-28717264

平成23年2月設計

入江崎総合スラッジセンター



川崎市上下水道局
KAWASAKI CITY

入江崎総合スラッジセンター

入江崎総合スラッジセンターは、老朽化した汚泥処理施設の更新と4か所の水処理センターから発生した汚泥の集約処理による処理効率の向上を図るため、平成7年11月から運転を開始しました。

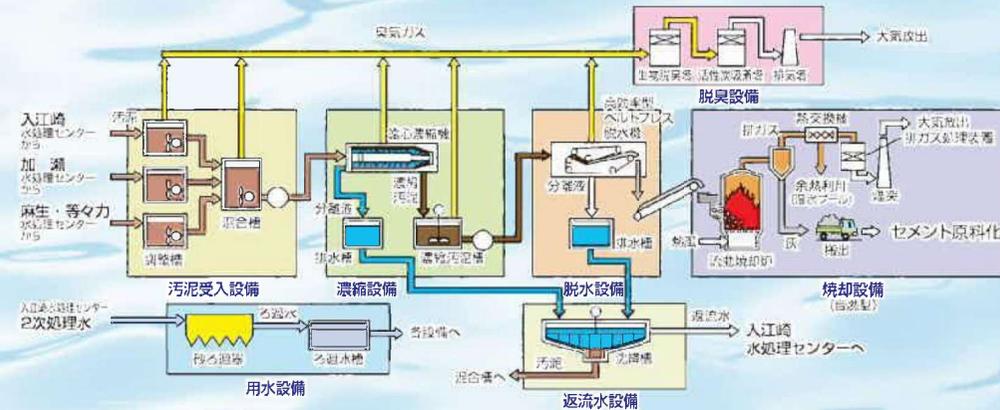
市内の4つの水処理センター（入江崎、加瀬、等々力、東作）からパイプラインにより圧送されてくる汚泥を、遠心濃縮した後、ベルトプレス脱水工程を経て、流動焼却炉による焼却を行っています。

また、この処理工程から発生する余熱エネルギーを、市民温泉水プールに活用し市民開放しているほか、施設の冷暖房、給湯などの熱源に有効利用しています。

一般平面図



フローシート



- 汚泥受入設備**
入江崎、加瀬、麻生、等々力の各水処理センターから圧送された汚泥を調整槽に受け入れ、混合槽で均一に混合します。
- 濃縮設備**
混合槽で混合した汚泥を濃縮します。
- 脱水設備**
濃縮した汚泥をさらに脱水してケーキ状にします。
- 焼却設備**
脱水ケーキを約850℃で燃焼させます。焼却灰はセメント原料として、余熱は温水プール等にそれぞれ有効利用します。
- 返流水設備**
焼却設備、脱水設備及び脱水機などからの排水を処理します。
- 用水設備**
入江崎水処理センターの処理水を再利用するためのろ過設備です。このろ過水は各施設やトイレなどの雑用水として使われます。
- 脱臭設備**
各設備から発生する臭気ガスを生物脱臭及び活性炭で吸着し、脱臭します。

環境への取組

◆地球温暖化対策への取組

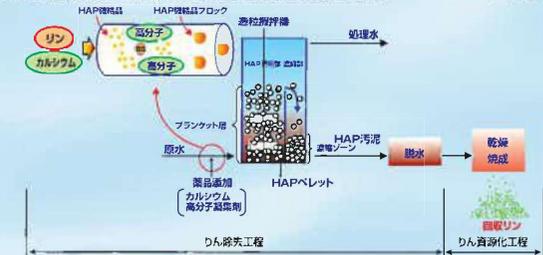
下水汚泥には多くの窒素分が含まれています。この下水汚泥を焼却すると、窒素分が熱分解し、二酸化炭素(CO₂)の310倍もの温室効果をもつ「一酸化二窒素(N₂O)」として大気中に放出されます。この一酸化二窒素は、高温(850℃以上)で焼却することによって、大幅に削減することが可能であることから、施設の高温度焼却炉に取り組みました。

ガスの種類	地球温暖化係数	主な人為的発生源
二酸化炭素	CO ₂ 1	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼
メタン	CH ₄ 21	耕作、畜舎の糞尿発酵などの農業部門
一酸化二窒素	N ₂ O 310	製鉄の燃焼
ハイドロフルオロカーボン	HFC 180~11,700	エアソール製品の消滅剤などへの使用
パーフルオロカーボン	PF ₆ 6,500~9,200	半導体等製造用や電子部品などの不活性液体に使用
六フッ化硫黄	SF ₆ 23,900	電圧降下抑制に用いられる電気絶縁ガスなどとして使用



技術開発

下水汚泥を集約するための輸送過程で、水処理によって汚泥体内に取り込まれたりんが汚泥から水中に溶け出し、汚泥処理によって高濃度のりんを含んだ排水が発生します。この排水は返流水設備で処理し入江崎水処理センターへ送られていますが、水処理センターの安定した処理水費の確保や、貴重な資源であるりんをより効率的に回収することを目的に、川崎市では、回収したりんを含む汚泥を、りん肥料の代替としても使える「HAP造粒法」の技術開発に取り組んでいます。



別紙処理フロー

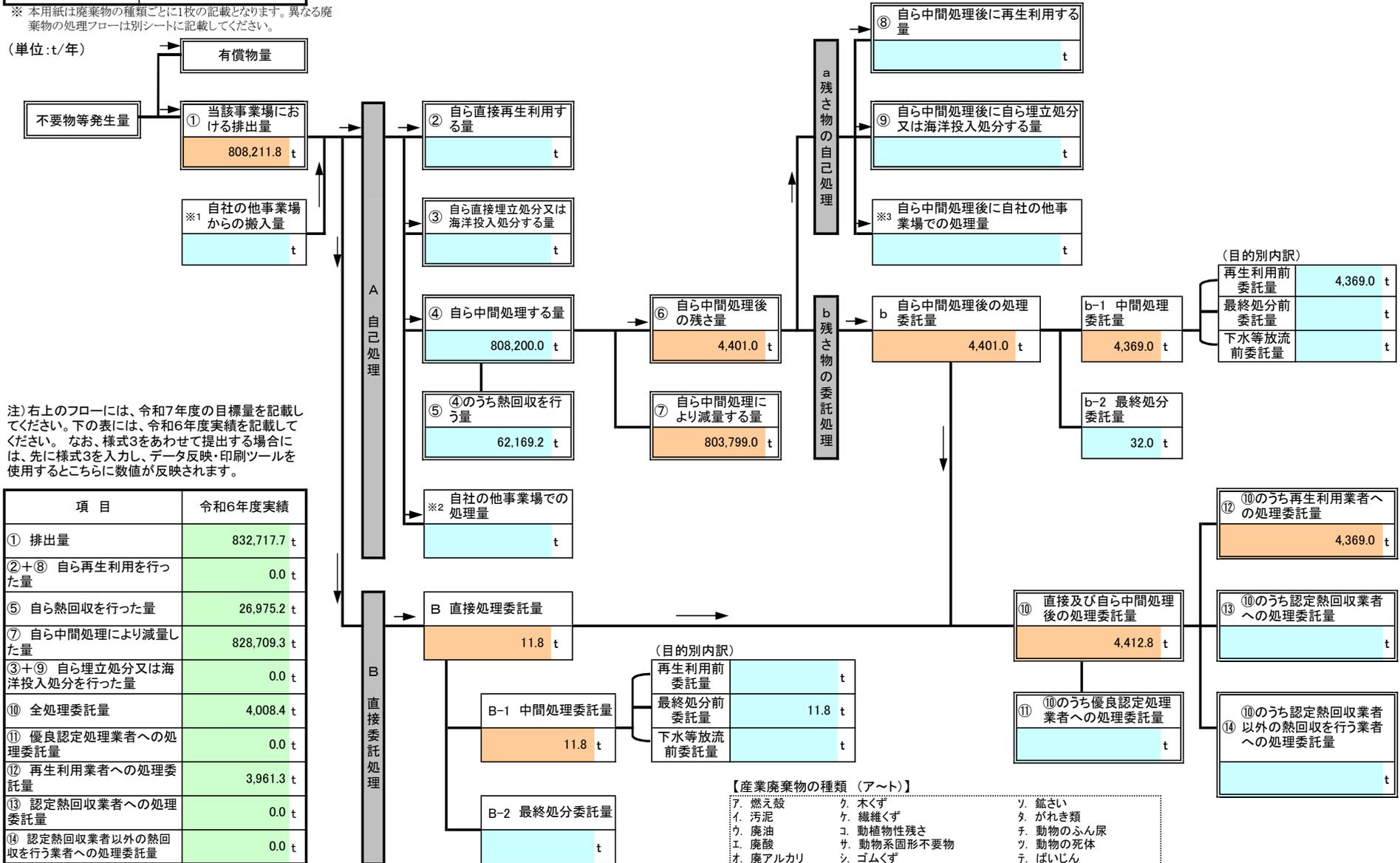
事業場名称： 入江崎総合スラッジセンター

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	832,717.7 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	26,975.2 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	828,709.3 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	4,008.4 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	3,961.3 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸くず
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

別紙処理フロー

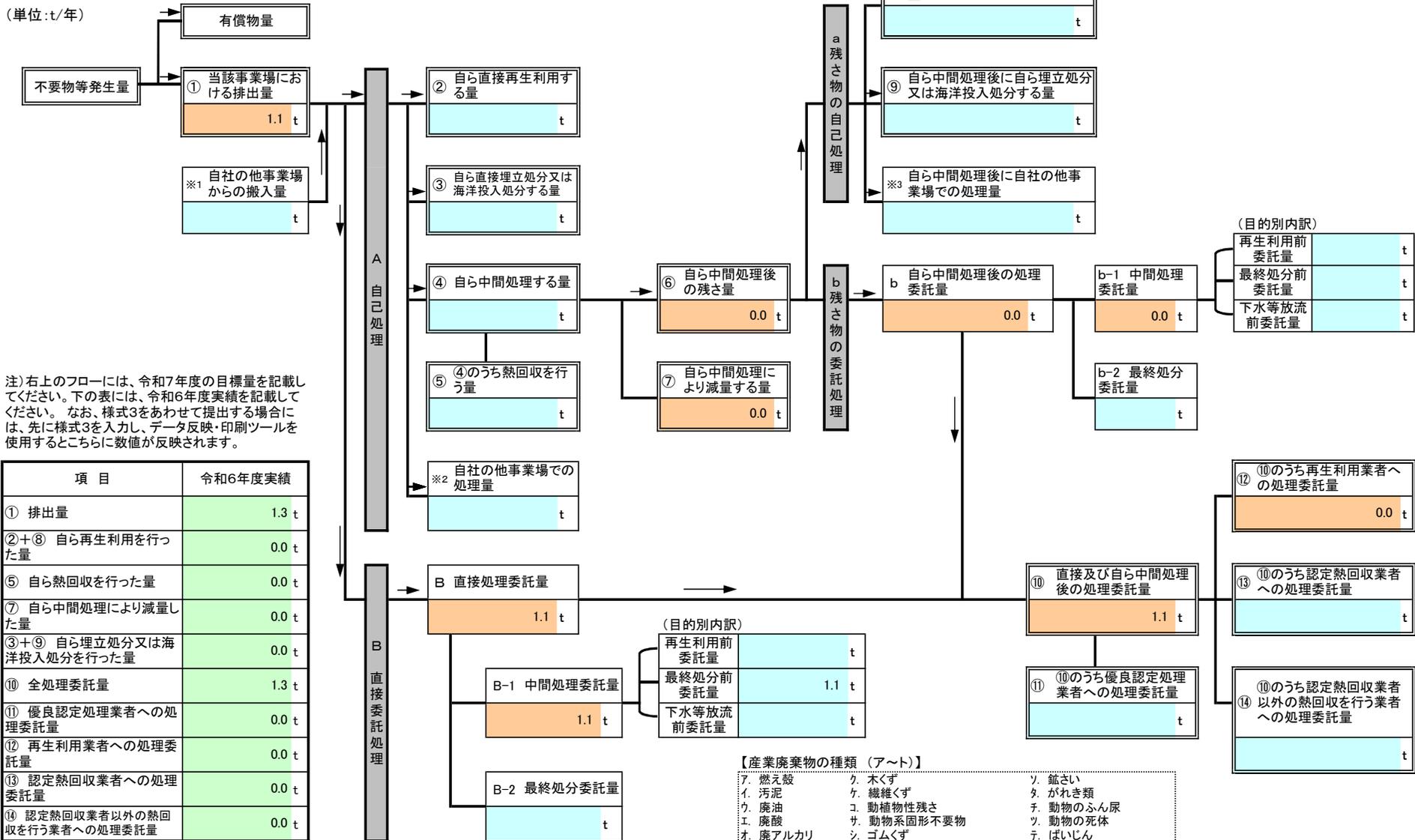
事業場名称 : 入江崎総合スラッジセンター

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ウ. 廃油
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	1.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

別紙処理フロー

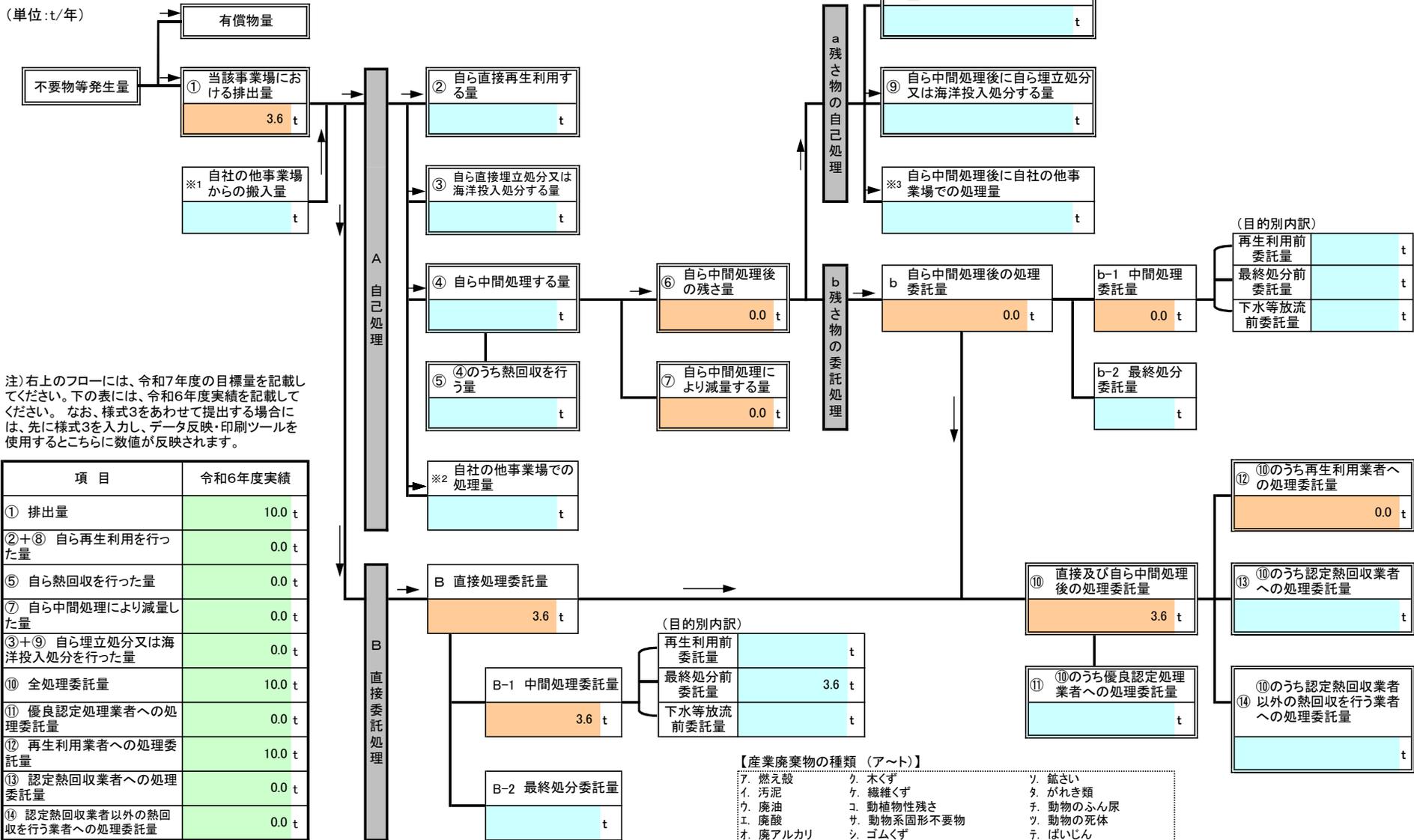
事業場名称 : 入江崎総合スラッジセンター

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	10.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	10.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	10.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸くず
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

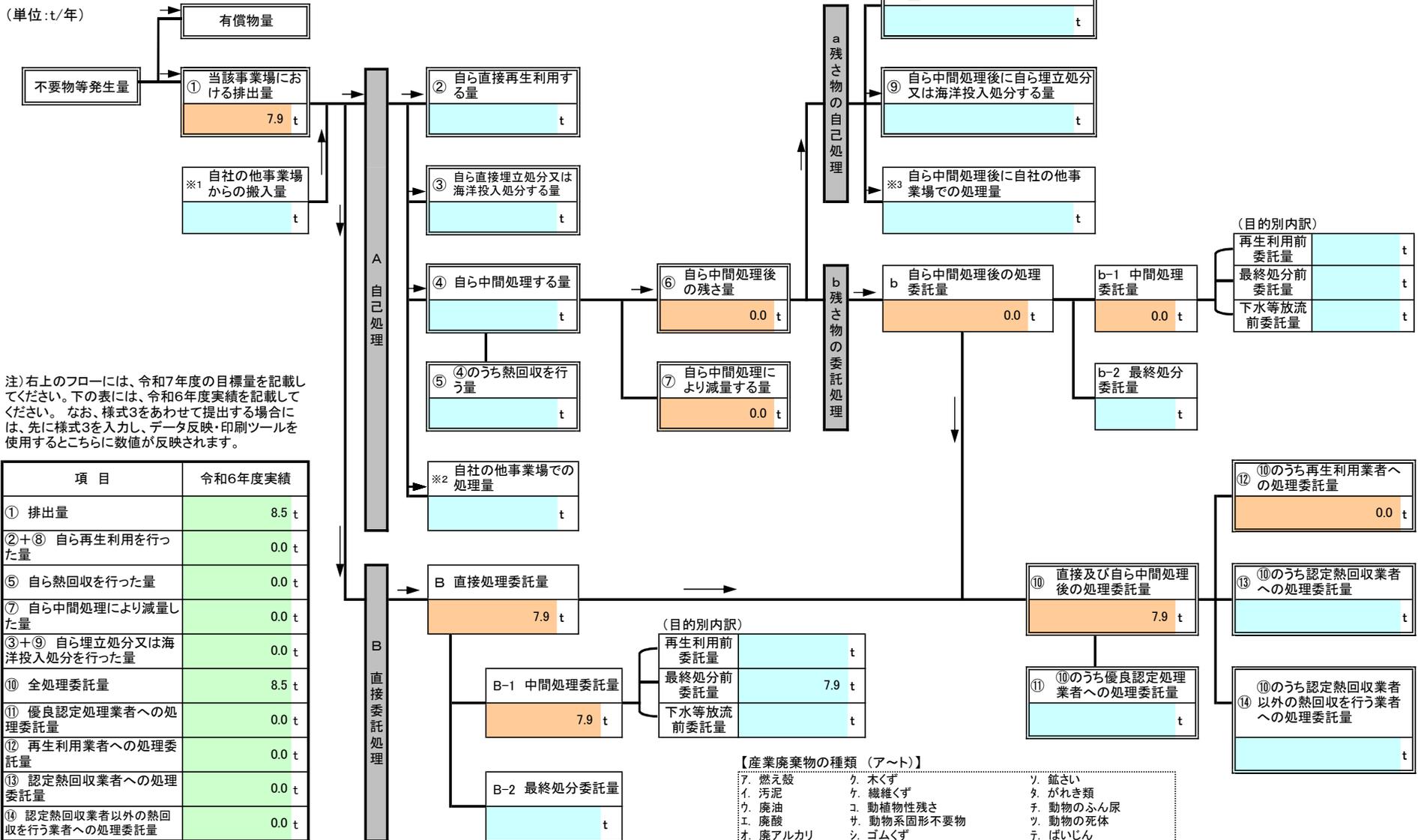
別紙処理フロー

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	8.5 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	8.5 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

別紙処理フロー

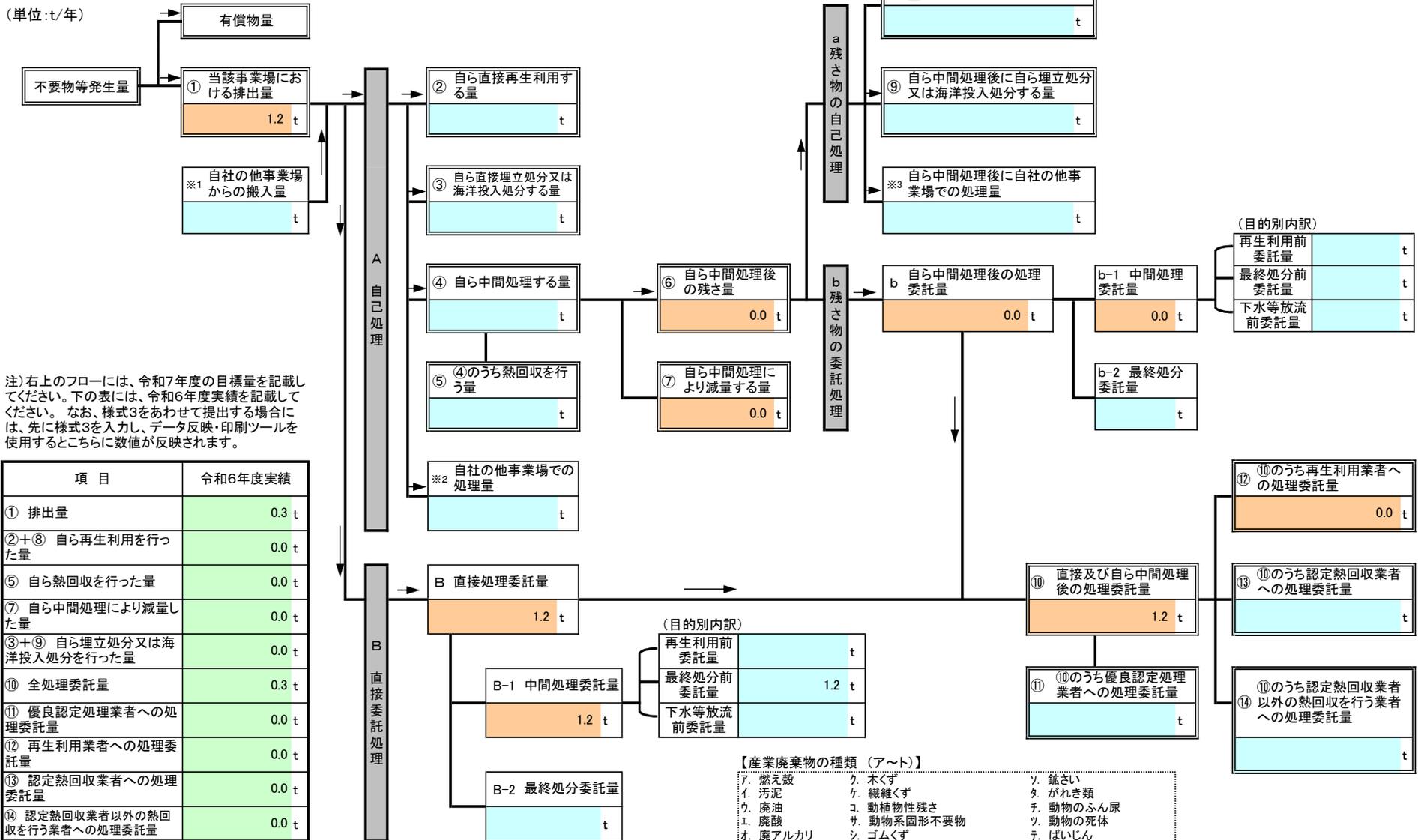
事業場名称 : 入江崎総合スラッジセンター

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	0.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

別紙処理フロー

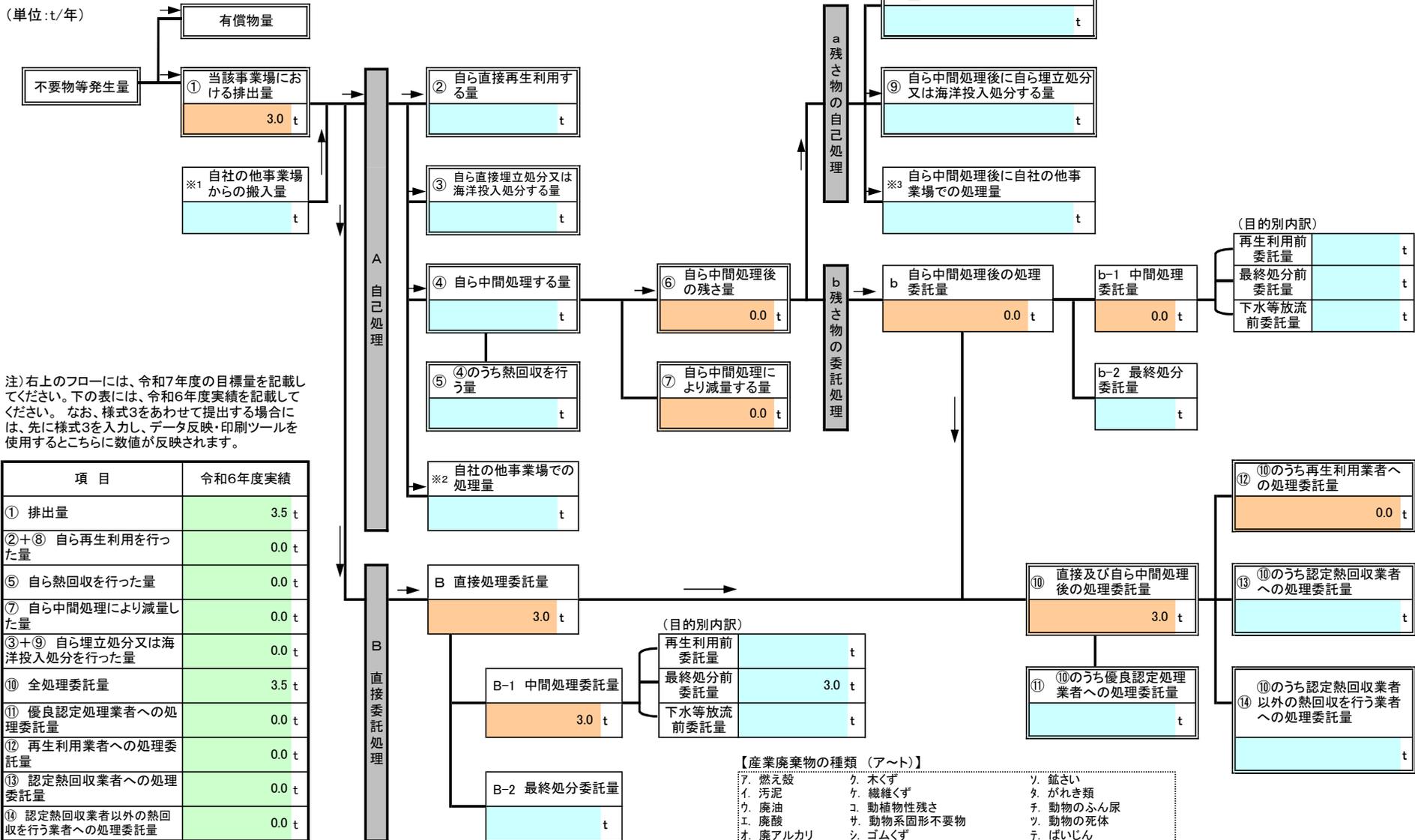
事業場名称 : 入江崎総合スラッジセンター

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト. 混合廃棄物その他
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	3.5 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	3.5 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	3.0 t
下水等放流前委託量	t

⑫のうち再生利用業者への処理委託量	0.0 t
-------------------	-------

⑬のうち認定熱回収業者への処理委託量	t
--------------------	---

⑭のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
-------------------------------	---